



木もれびの森の森の虫たち (18)

今回をもって掲載終了に当たり、森の豊かさを支えているふかふかの土壌を作り上げていくために大切な役目を担っている土壌生物をご紹介します。森のあらゆる生物の成長の過程や食物連鎖の営みにおいて発生する遺物(落ち葉、枯れ木、昆虫などの死骸や糞等)を分解し栄養分を生成し地中に蓄え植物に還元していくために、菌類と共に活動しているのが土壌生物です。目で見えないほどの小さいダニ類からモグラまで様々な種類の土壌生物が生息しています。

木もれびの森でもジュニアボランティア活動の中で、数回にわたり調査しました。森の豊かさを土壌生物の存在で評価する指標に照合した結果、良い評価を得ています。見てくれは気味の悪いものが多いですが、大切な仲間です。親しみをもって大事にして下さい。(海野)



木もれびの森の外来種植物

過去 2 年にわたってチームの皆さんによって、森の中の外来植物 12 種を報告してきました。

今回は市内の特定外来種 7 種のうち、木もれびの森で確認されている「アレチウリ」について報告します。「荒地瓜」というだけあって、木もれびの森の中でもパートナーシップを結んで整備をしている区画には、見当たりませんが、手の入っていない藪の周りでは、見ることが出来ます。

外来種といっても、他の植物にあまり影響のないものは、そっとしておきたい時もありますが、アレチウリに限っては、できる限り根から抜き取る事をお勧めします。(野口)

アレチウリ「荒地瓜」 ウリ科

北米原産の 1 年生帰化植物

1952 年に始めて確認されたのち、荒地や、河原などに大繁茂している。巻きひげでいろいろなものに絡まりながら広がっていく。

葉は、互い違いにつき、丸みのある 5 角形で基部はハート形。

花期は 8~10 月。黄白色の星型の花が咲く。花は直径約 1 センチ。



雌雄同株。雄花はまばらな穂になり、雌花はまるく集まってつく。
果実は棘と軟毛におおわれ、数個ずつ集まってつく。

虫こぶの不思議(その4)

実際には、ゴールと呼ばなければいけないのですが、私自信は虫こぶと呼ぶのが好きなので今回も虫こぶで書かせていただきます。

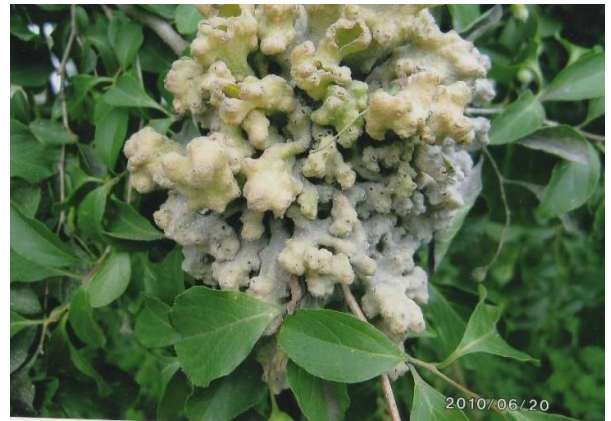
虫こぶの利用法、形成者についてなどのお話しをしてきましたが今回は「木もれびの森」の中で良く見られる虫こぶの紹介をしたいと思います。

・エゴノキ

エゴノネコアシ 形成者:エゴノネコアシアブラムシ



(撮影者:田崎)



(撮影者:神谷、沢山の虫こぶ?为什么呢か)

・イヌツゲ

イヌツゲメタマフシ

形成者:イヌツゲタマバエ



・ネズミモチ

ネズミモチミミドリフシ

形成者:イボタミタマバエ



*エゴノネコアシは、その形が猫の足を連想させることからついた名まえだそうです。猫足に見えますか。ネズミモチミミドリフシは本来実が発育不良となり緑色のまま枝に残りますが、撮影が1月になってしまったため茶色になっています。

樹木では、アカシデ・イヌシデ・ケヤキ・ムクノキ・エノキ・クワ・シロダモ・キイチゴ・ヌルデ・ノブドウ・ミズキなどにみられます。

草では、ヨモギ・ヤブレガサ・オトコエシ・ヒヨドリバナ・ブタクサ・イノコズチなどに良く見られます。
さあー、春になったら虫こぶ探しにでかけましょう！(高橋)